

おでんせ釜石

鉄のまちガイド

釜石は日本近代製鉄の発祥の地であり、鉄のまちとして発展を遂げてきました。自然豊かな山と海に囲まれた釜石のまちを歩けば、今も先人たちの足跡と、その先人たちから受け継いだものづくりへの情熱や文化の息吹を感じることができます。

おでんせ：岩手県の方で「おいでください」の意味



釜石鶴住居復興スタジアム

2019年ラグビーワールドカップの会場。9月25日フィジー対ウルグアイ、10月13日ナミビア対カナダが行われる。

釜石のラグビー



釜石シーウェイブスRFC

日本ラグビー史に一時代を築いた“北の鉄人”のDNAを受け継ぎ、地域に根ざしたクラブチームとして2001(平成13)年に誕生。トップリーグ昇格を目指し奮闘中。

復興の鐘

被災された多くの方々の希望の鐘となることを願い、震災の年の2011(平成23)年大晦日に建立された。



釜石港

1874(明治7)年に官営製鉄所が建設されて以来、鉄鋼関連貨物の取り扱いを中心に発展。震災からの早期復旧を果たし、岩手と世界を結ぶ物流拠点として躍動を続ける。



釜石の海と漁業



大漁旗

親潮と黒潮が交錯する世界屈指の三陸漁場を控え、昔から沿岸漁業が盛んだ。大漁旗は福が来る良い習わしとして伝えられ、釜石のシンボルに欠かせない。



鉄製扁額

山神社

釜石製鉄所の守護神社。官営製鉄所の廃止後、再興を果たした釜石鉱山田中製鉄所が1894(明治27)年コークス利用の鉄づくりに成功。日本初のコークス銑で扁額が鑄造された。



橋野鉄鉱山 インフォメーションセンター

橋野鉄鉱山の歴史的意義や価値をパネルや映像で解説。絵図に基づいて仮想現実で復元した1860年代初頭の高炉などがガイドアプリで体感できる。

釜石の鉄の歴史

釜石鉱山跡

1727(享保12)年に鉄鉱石が発見されて以来、日本近代化の歩みと共に釜石の根幹を支えた。1993(平成5)年に大規模な採掘を終了。



釜石のものづくり

釜石製鉄所

日本製鉄の高級線材の製造拠点として釜石のものづくりをけん引するとともに、岩手県内一般家庭の電力需要の4割に相当する14万9,000キロワットの供給能力を有している。



ものづくりの灯

2007(平成19)年の近代製鉄発祥150周年記念事業の一環として灯り始めた。



大島高任像

日本で初めて洋式高炉の技術移植を見事に成し遂げ、釜石鉱山の良質な鉄鉱石を使って本格的な鉄づくりに成功。日本近代製鉄の父と呼ばれる。



鉄の歴史館

大島高任や釜石の製鉄業に携わった先人たちの偉業を後世に伝え残す貴重な資料が展示されている。

釜石の自然



仙人峠

遠野と釜石の境にある標高887メートルの緑深き峠。紅葉の季節は特に美しい。



鹿踊・虎舞 三陸沿岸に伝承される釜石の代表的な郷土芸能で、釜石まつりは最高潮に達する。



釜石のまつり

釜石まつり

尾崎神社と山神社の合同祭。東日本大震災以降は復興祈願祭として、まちに大きな活力をもたらしている。2019(令和元)年は10月18~20日に開催。釜石製鉄所と協力会社の社員も祭を盛り上げる。

